

「本校の教育を受けて」

初等部後援会長 安田 昌史

昨年度より後援会長を務めております安田でございます。長女が高等部、次女は初等部に在籍しております、青山学院初等部の保護者としては今年で11年目を迎えます。

初等部はキリスト教教育を基本として、あらゆる取り組みが「初等部ならではの」教育を特徴付けています。その一つが6年間で50泊以上の宿泊行事です。長崎県の平戸の美しい海で遠泳にチャレンジする「海的生活」、大型客船で8泊9日の航海体験をする「洋上小学校」など、小学校の宿泊行事でこれほどのスケールで子ども達に感動を与えるものはないと思います。

また、初等部には成績表の代わりに「成長の記録」というものがあります。これは先生、児童、保護者がPDCAサイクルを用い、三者の面談により指導と評価をするものですが、個々の成長を大切にされたものとなっております。

そして日々の初等部教育の特徴として日記があります。これは子ども達が日々起こったこと、感じたことを日記に書き、保護者と先生が日々コメントする三者の交流日記でもあります。6年間毎日続けますが、まさに初等部生活の記録であり宝です。

また、初等部は学校と家庭は車輪の両輪という考えのもと、保護者が学校行事やボランティアで活躍する機会も大変多く、親としても学びが多い学校です。

先駆的な取り組みにチャレンジするというのも、初等部の特徴です。「成長の記録」や「ランドセルの廃止」などの取り組みもその例ですが、このコロナ禍においても、ICT教育の一層の充実化が図られました。オンライン配信での礼拝や授業、Web会議システムを通じての先生とクラスメートとのコミュニケーションの実施など、短時間でICT教育の環境が急速に整備されました。またこのコロナ禍において、学校の無事と安全を守りながらも、子どもたちが笑顔で学校生活を送れるように、教職員の方々が日々努力されている様子を頭が下がる思いで拝見しておりました。

「初等部は日本一の小学校である」と各方面からそのようなお声を聞きます。「日本一の小学校」が、神様の愛、先生方の日々の努力、家庭の協力、それぞれの長年の積み重ねで今日もあるということが、10年間の初等部保護者生活で得た最大の気づきであります。このことを初等部を志望される方にお伝えできれば幸いに存じます。

以上